



トルコ地震の被災地を支援したい。

武庫川女子大学の学生が募金活動をしています。

2月に発生したトルコ・シリア大地震の被災地を支援しようと、武庫川女子大学の学生たちが、学内で募金活動に乗り出しました。トルコ地震では、トルコと交流の深い建築学部の学生たちが3月から、支援の拠点となるドーム（レシプロカル・ドーム）を学内に作り、千羽鶴を折ったり、寄せ書きを呼びかけたりしてきました。これがきっかけとなり、全学生で組織する学友会が支援活動を決定。4月11日から中央キャンパスで募金活動をしています。4月28日まで行います。

武庫川女子大学では4月12日から20日まで、建築学部の教員3人がトルコ共和国南部の被災地を訪れて倒壊した建造物等の調査を行っており、学生の願いを込めた千羽鶴は教員らとともにトルコに渡っています。

武庫川女子大学は2008年にトルコのバフチェシヒル大学と一般交流協定を結んでおり、主に建築学部で大学間の交流があります。上甲子園キャンパス内にあるトルコ文化研究センターではトルコの建築や文化に関わる展示と研究を続けています。

こうした経緯から、発災直後から建築学部の学生がいち早く、千羽鶴を折るなど被災地支援を検討してきました。3月には中央キャンパスに実寸大のフォリー（東屋）を建て、支援の拠点として整備。内部に千羽鶴を飾り、メッセージカードを置いて協力を呼び掛けてきました。

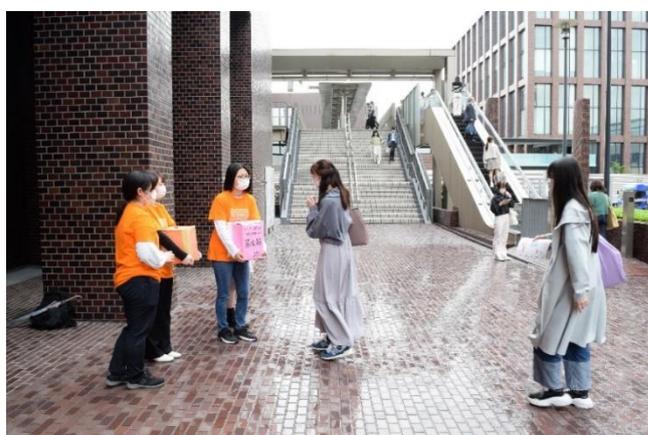
募金活動は全学生が所属する学友会の総務委員会が、学内のボランティア団体「ブラウナリスボランティア※」と連携して中央キャンパスで実施。昼休みに交代で募金箱を持ち、募金を呼び掛けています。

集まった募金は「トルコ大使館」に寄付し、被災地支援に役立てます。

総務委員長の栗田千聖さんは「もっと呼びかけを行い、さらに募金活動を活発化させたい」と話しています。

※ブラウンライスボランティアは学内の食堂で玄米メニューを提供し、売り上げの一部を世界食糧計画(国連 WFP)に寄付しているボランティア団体。

この件に関するお問い合わせは
武庫川女子大学広報室
kohos@mukogawa-u.ac.jp
(0798-45-3533) にお願ひします。





中央キャンパスに設置されたトルコ支援のためのドーム



トルコに届いた折り鶴（バフチェシヒル大学で）